

安心と信頼、良質なてんかん・神経の包括医療

静岡てんかん・神経医療センター情報誌

令和2年 冬 第61号

あかり

A K A R I

新年を迎えて	1
てんかん学会ポスター賞の報告	3
てんかんや認知症の診断に役立つSPECT装置が新しくなりました	3
認知症看護認定看護師について	4
インフルエンザに「うつらない」「うつさない」ための取り組みを!	4
てんかんの市民公開講座と個別相談会を開催しました	5
てんかん看護セミナー終了しました!	5
秋祭り/コーヒーを楽しむ会	6
外来再診の診療体制/医療連携室	7
はじめて当院を受診される方へ/当院へのアクセス/本	8



新年を迎えて



あけましておめでとうございます。新しい年が、皆様にとってよい年であることを心からお祈り申し上げます。

今手元に桐の箱にしまわれた大小一組の銀杯があります。30年勤続の表彰でいただいたもので、表には“記念品・独立行政法人国立病院機構理事長”と書かれています。なかなかお目にかかるものではないので、自慢ついでで少し詳しく紹介します。と言ってもこの原稿がなければここまで調べなかったと思いますが…。直径は6cmと9cm。杯の中心に金で家紋のような模様が描かれています。桐の家紋かもと当てずっぽうにPCで検索するとピンポンでした。鳳凰は桐にしかとまることはなく、竹の実しか食べ

ることがないと言われていたため、日本では「桐」、「竹」は聖なる植物として扱われ、桐紋は高貴な人しか使うことができず、鎌倉時代以降は天皇家の象徴となったのだそうです。桐の家紋には五七の桐と五三の桐の2種類があるとあります。3枚の葉の上に咲く花の数が左から3、5、3が五三の桐、5、7、5が五七の桐で、前者は功績のあった人に天皇から贈られるもので、足利尊氏や織田信長らが下賜されたのに対し、五七の桐は天皇家の家紋だそうです。豊臣秀吉が五七の桐を家紋にして以来諸国武将が使うようになり、今では10大家紋の一つになっているそうです。相当ありがたい模様なのだと合点し盃を返すと、“洋銀”と見慣れない文字が刻印されていま

した。意味を知りたい方はご自身で調べてみてください。調べ過ぎない方がよいこともあるようです。

桐の家紋を見ながら30年を振り返ってみました。着任したのは1988年10月。長時間ビデオ脳波同時記録を駆使して発作を記録し、正確な発作診断に基づいた治療を最大の武器として、てんかん診療に次々と科学の光を当ててきた病院です。張り切らないわけがありません。紙の脳波用紙の時代でした。放っておくといつの間にか記録された紙は所定の場所に収まらず暴れ始めます。こうなると大変で、ページの境で破れないよう、くねった紙をなだめながら折たたみますが、その頭の上に容赦なく新しい紙が降りてくるのです。テープも当画質を重んじて放送局で用いていた“Uマチック”方式で、120分しか録画できなかったと記憶しています。紙とテープのケアのため、いえいえ、発作症状を目に焼き付け、一たび発作が起こったら脳波室に飛び込み患者さんに声を掛け、顔色を見て、体に触れ、五感を駆使して発作を覚えました。一つ一つの発作には、それぞれに空気感があるのです。

終夜脳波は大変でした。当直どころの話ではありません。紙の洪水やテープ切れなどの災害を予防するためにも一睡もできません。もちろん翌日、仮眠などない通常勤務です。発作が起こると脳波計も独特のリズムを奏でます。サカサカサカ、ザザザザザ、ザンザン・ザンザン、ザンザンザン。音で発作を感じるようになります。慣れてくると、最大3人まで同時に検査しました。患者さんには3つの部屋にそれぞれ寝てもらい、各部屋のモニターのコードを引っ張って1か所に並べ、その前に陣取ってモニターを凝視します。城に籠っているような高揚感があります。朝食は、中央脳波室まで看護師さんが運んでくれます。患者さんが病棟に帰った後は、技師さんが出勤する前に何事もなかったように片づけます。技師さんに嫌われないよう、電極を貼るためのテープも元通り切っておいたりしましたが、徹夜のアンニュイだけは残してきたような気がします。

ある早朝、終夜脳波も終わろうとしていた頃、官

舎にいる妻からピッチが鳴り「おなか痛い」と一言だけ言って切れてしまいました。胸騒ぎがしましたが検査を中断するわけにはいかないと、焦る気持ちを抑えながらモニターを凝視していると珍しく、というより後にも先にもその時に限り、当直師長さんが脳波室を覗きに来たのです。ちょっと心配で…と話すと、「すぐに検査をやめて帰りなさい」とたしなめられました。その言葉に我に返り慌てて検査を終了し帰宅すると、玄関でうずくまっている妻が目に入りました。自分で運転して受診しようとして動けなくなったとのこと。そのまま胆石で入院となりました。あの時師長さんに声を掛けてもらわなかったら、今の家庭はなかったかもしれません。アナログの時代でした。

デジタルの時代になると様相は一変します。長時間脳波は録りたいだけ録れます。その分解量は飛躍的に増えます。技師さんや看護師さんの協力を得て、総がかりの検査に変貌してゆきます。

SPECT(スペクト)という放射性同位元素を用いて脳血流を調べる検査があります。発作が起こる部位は、普段は血流が少なく、発作になると大量に血液が流れ込む様子を調べ、発作の始まる部位を調べるのです。発作時の血流を調べるためには、発作が始まった直後に放射性同位元素を注射する必要があります。患者さんと待機室に入り発作を待つのです。同位元素の線量は刻々と下がるので、注射したら速やかに検査する必要があります。そのため、技師さんも待機する必要があります。今年になり放射線科から、「夜間、いかなる時間でも発作時スペクトに対応します」と案内がありました。技師さんも徹夜を厭わないと宣言したのです。嬉しくなりました。

発作の記録に懸ける想い。アナログからデジタルに時代が変わろうと、この病院に脈々と流れてきた血は繋がっている。患者さんを中心にあらゆるスタッフが力を合わせ、てんかんや神経難病に困っている患者さん、重症心身障害のある方々の役に立ちたいという想いが、この病院の価値だと思っています。ご利用いただけたら幸いです。

(統括診療部長 久保田 英幹)

てんかん学会ポスター賞の報告

脳神経内科医師 川口 典彦

この度、第53回日本てんかん学会総会にて神戸ポートアイランド賞(ポスター賞)を頂きましたのでご報告致します。今回は「扁桃体腫大の簡易的測定方法の検討」という発表を行いました。扁桃体は海馬の前方にある構造物で、近年はこの扁桃体が大きくなること(扁桃体腫大)がてんかんや脳炎などの病気に関わると言われています。通常、我々はMRIのフレア画像を見て扁桃体が腫れていると診断しますが、コンピュータが判定する場合にはT1強調画像が使われます。つまり、われわれ医師が見ているものと、コンピュータが利用している画像は異なります。そこで今回、この人間とコンピュータの解析が一致しているのかを検討しました。その結果、両者の解析結果(扁桃体の容積)は相関

が有意に高いことが明らかになりました。つまり、異なる画像を用いても本質的には同じ結果が得られることが確認できました。

近年は、AIなどの機械学習が進歩し、特に画像解析は人間よりも優れている部分があるとされています。医学でもコンピュータによる画像解析は恣意的な要素が入らず正確であると言われますが、実際にはすべての患者さんのデータをコンピュータで解析することは出来ません。今回の研究では我々が経験的に行っている画像判読も間違っていないことが確認できました。医師の臨床的経験とコンピュータを組み合わせて精度の高い医療を目指すという姿勢で今後も研究を進めていきたいと思えます。

てんかんや認知症の診断に役立つ
SPECT装置が新しくなりました副診療放射線技師長
葛城 裕幸

核医学検査 (SPECT) とは

核医学検査は、微量の放射線を出す薬剤(放射性医薬品)を体内に投与することで、体内から出てくる放射線をガンマカメラと呼ばれる装置で検出し、画像化する検査です。疾患に応じて、薬剤を使いわけることによって、さまざまな機能や代謝の様子を画像としてみるすることができます。

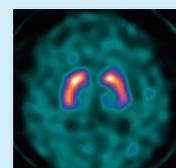
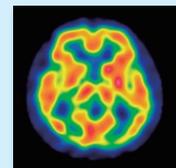
本装置の特長

一般的な装置の検出器が2個であるのに対して、本装置は3個装備されており、より多くの情報が収集できます。

さらに、ファンビームコリメータと呼ばれる頭部検査専用の特別な器具や最新の画像処理技術により、画質の向上が得られます。

分解能が向上したことにより、わずかな変化や細かい構造がとらえやすくてんかんの発作焦点がより鮮明にわかるようになりました。

脳卒中や認知症の画像診断にも役立ちます。



認知症看護認定看護師について

認定看護師 A2病棟副看護師長 土幸 伸子

認定看護師は、特定の看護分野において熟練した看護技術と知識を用いて水準の高い看護実践のできる認定看護師を社会に送り出すことにより、看護現場における看護ケアの広がりや質の向上をはかることを目的として、1995年に日本看護協会によって作られました。現在、認定看護師として特定されている分野は、救急看護や訪問看護、緩和ケア、不妊看護など、さまざまな21分野があり、2019年7月現在、全国で20,960人の認定看護師が活躍しています。そのうち認知症看護は2006年に認定が



開始され、現在全国に1,581人います。私は2019年7月、この認

(写真は、認定看護師教育課程を受講した聖路加国際大学と成果発表会の様子です。)

知症看護認定看護師を取得しました。認知症の方に対する看護の質の向上は様々な場面の課題であり、これからも認知症看護認定看護師は増えていくでしょう。

認知症の方にとって、入院で生活環境が大きく変わることは大きな不安や不快を伴います。そして、どう感じているかを十分に表現できないことが、対応が難しい症状として表れることも多くあります。認知症の方の意思表示をサポートし、症状を悪化させる要因に働きかけて、安心できる環境を整えることができるよう取り組んでいきたいと思えます。



インフルエンザに『うつらない』『うつさない』ための取り組みを!



中材・手術室看護師長 感染対策係長 村松 亜起

平成30年度はインフルエンザが大流行しました。病院で働く多くの職員も罹患してしまいました。インフルエンザは例年、12月上旬から中旬に流行が始まりますが、令和元年は11月上旬にインフルエンザの流行シーズン入りが発表されました。11月上旬の流行開始は、最近10年間では最速です。いったん流行が始まると短期間で多くの人へ感染が広がるのがインフルエンザの特徴です。

インフルエンザはインフルエンザウイルスが鼻腔・咽頭・気管支・肺で感染増殖することによって発症します。突然の高熱や関節痛、筋肉痛、全身倦怠感、頭痛など全身症状が強く表れ

ます。発症する1日前から発症後約5日間ウイルスを排泄し、発症後の3日間が最も感染力が強いと言われています。

インフルエンザウイルスを皆無にすることはできません。外出先や学校など身近な場所で罹患してしまいますが、もちろん予防もでき、効果的な予防策として以下の5つがあります。

- 1 インフルエンザワクチンの接種
- 2 手洗い
- 3 咳エチケット、マスクの着用
- 4 加湿(うがい、加湿器)
- 5 環境清掃(付着したウイルスの除去)

正しいマスクのつけ方

隙間がないように!



マスク表面部分に触れない

あごまできちんと覆う

インフルエンザは重症化することのある侮れない病気です。

予防対策に取り組みましょう!

てんかんの市民公開講座と個別相談会を開催しました

経営企画室長 柴田 淳

講演内容：「てんかんって何？」

日 程：令和元年11月24日(日)

場 所：アクトシティ浜松 研修交流センター4階401会議室(静岡県浜松市)

共 催：国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター
(公社)日本てんかん協会 静岡県支部

参 加 者：一般市民39名、個別相談3件

【 概 要 】

静岡てんかん・神経医療センターは、平成27年11月に静岡県よりてんかん地域診療連携体制整備事業における「てんかん診療拠点機関」の指定を受けました。

このたび、令和元年11月24日(日曜日)に、「てんかん診療拠点機関」の役割の一つであるてんかん患者さんやその家族、地域住民等への普及啓発として静岡県西部地域の浜松市において、(公社)日本てんかん協会静岡県支部と共催で「市民公開講座てんかんの講演と個別相談の会」を開催しました。

参加者の方々には熱心にメモをとりながら聴講される方もいらっしゃり、質疑応答も活発に行われ、

非常に盛況でした。

当センターは、静岡県のとんかん拠点機関として、てんかん診療に関する医療機関連携体制・治療体制の整備や、患者さんと家族に対する相談支援、また、医療関連職や福祉・教育職の為の研修事業、てんかんに関する正しい知識の普及啓発を行っています。

引き続きこれからも、市民公開講座、相談会等や専門職対象とした研修会等を行い、てんかん医療の質の向上に貢献出来る医療機関として努めて行きたいと考えています。



てんかん看護セミナー終了しました!

教育担当看護師長 池ヶ谷 和美

10月17・18日の2日間「てんかん看護セミナー」を開催しました。北海道から鹿児島まで、てんかん看護に携わっている又はてんかんに興味のある看護師45名と多くの方が参加されました。

まず、医師からてんかんの診断や治療、さらに詳細を薬剤師、検査技師、医療ソーシャルワーカー、作業療法士、栄養士から説明を行いました。看護師からは成人・外科・小児・重症心身障がい



の各分野の看護について話をしました。その後、昼食時にてんかん食の試食をし、希望された2か所の病棟見学、最後に意見交換会を行いました。看護を行う上

で困っていることや疑問を感じていることなど活発な意見交換ができました。

終了後アンケートでは「様々な部門の

方々から講義をうけることができたのはとてもよい経験になりました」「知識や経験が少なく、発作の動画を見たり、発作対応の仕方をデモンストレーションで学ぶことができ、病棟内で情報共有していきます」等の意見があり、専門性の高い当院だからこそ伝える内容があり、理念でもある「安心と信頼、良質なてんかん・神経の包括医療」を感じて頂くことができたと思います。





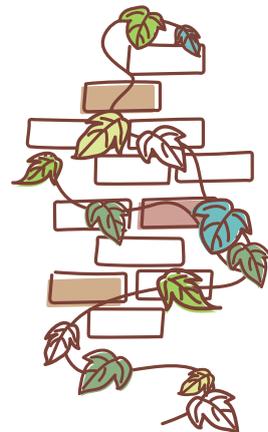
令和元年11月。元号が令和へと変わり初めての秋祭りを開催しました。今年度は、療育スタッフが各病棟に訪問し「JAPAN!!～昭和・平成・令和 思い出を振り返ろう～」の



テーマに沿って患者さんと盆踊りを踊ったり、フォトグッズを使って一緒に写真を撮ったりしました。行事ならではの盛り上がった雰囲気の中、患者さん、ご家族、職員が一体となって楽しむことができました。今後も患者さんが色々な人と触れ合い、楽しめることは何か、スタッフ一同知恵を出しあって行事を運営していきたいと思



10月下旬、B1病棟とひまわり通園にスターバックスの皆さんがボランティアに来て下さり、ひまわり通園では、「コーヒーを楽しむ会」を開きました。

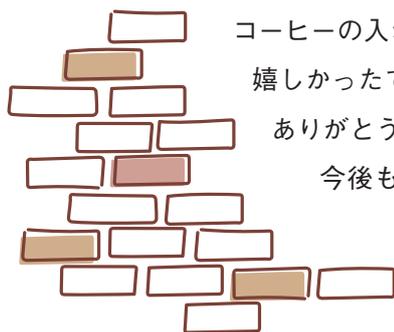


おなじみの緑色のエプロンをした店員さんが、目の前でコーヒーを淹れて下さいました。コーヒーの香りで満たされた部屋の中、音楽とお湯を注ぐ音を聞きながら、ゆったりと贅沢な気分。淹れたてのコーヒーをそのままブラックで、またミルクとシロップで甘みを加えて…と違いを味わいました。コーヒー好きの方が喜んだのはもちろん、苦みに驚いたり、

香りに目が大きく開いたりそれぞれ楽しむ姿がみられました。

コーヒーの入れ方等の話を聞き、店員さんと触れ合えたことも嬉しかったです。スターバックスの皆さんありがとうございました。

今後もひまわり通園ではいろいろなことを企画し、利用者様と一緒に楽しい時間を作っていきたいと思



診 療 体 制

てんかん科		午前の診療時間は8:30~12:00 午後の診療時間は13:00~16:30									
診察室	曜日	初 診					再 診				
		月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
第1診察室								山崎	川口	山崎	白井
第2診察室				久保田 英幹		久保田 英幹	久保田	池田仁 <small>午前のみ</small>		久保田	
第3診察室			今井 克美		白井 直敬	今井 克美	今井		荒木		
第4診察室	日吉 俊雄				日吉 俊雄			鳥取	日吉		日吉
第5診察室							池田仁	池田浩	池田浩	寺田清	
第6診察室							芳村			芳村	松平
第7診察室								荒木		美根	
第8診察室	高橋 幸利				高橋 幸利			西田	高橋		近藤
第9診察室			川口 典彦	池田 仁			重松			大谷	大谷
第12診察室	西田 拓司	松平 敬史 (第1,2,4,5週) 芳村 勝城 (第3週)	重松 秀夫	荒木 保清 (第1,3,5週) 松平 敬史 (第2,4週)	西田 拓司 (第1,3,5週) 山崎 悦子 (第2,4週)						

脳神経内科		初診				
診察室	曜日	月	火	水	木	金
第10診察室	午前	高嶋 浩嗣	小尾	小尾		小尾
	午後	小尾 智一	小尾 智一	小尾 智一		小尾 智一
第11診察室	午前	杉浦 明 (再診あり)	杉浦			山崎/馬場國
	午後					尾内 康臣 (第4週)

特殊外来		
転倒予防外来	随時	小尾 智一
認知症疾患医療センター	月・水・金	小尾 智一 山崎 公也
遺伝カウンセリング外来	適宜	高橋 幸利 小尾 智一
禁煙外来	随時	池田 仁

再来診療は予約制です。予約が出来ない場合は午前中にお越しください。

地域医療連携室のご案内

医療機関間のコミュニケーションを円滑に行なうために、地域医療連携室を設置しています。ご利用ください。(平日)

T E L ■ 054-246-4580

F A X ■ 054-246-4607

E-mail ■ 307-renkei@mail.hosp.go.jp

当院では、脳波、筋電図、誘発電位、脳磁図、終夜ポリグラフ、CT、MRI、SPECTなどの検査が可能です。共同利用も可能です。上記、地域医療連携室にお問い合わせください。

広報誌編集委員会

編集人 ■
西田 拓司 松下 剛 池ヶ谷和美
矢嶋 隆宏 佐倉 裕二 葛城 裕幸
堀 友輔 高橋 輝 長田 英喜
大山 敏生

発行 ■ 令和2年1月21日
国立病院機構
静岡てんかん・神経医療センター
〒420-8688 静岡市葵区漆山886

T E L ■ 054-245-5446
F A X ■ 054-247-9781
U R L ■ <https://shizuokamind.hosp.go.jp/>
E-mail ■ 307-shizuokamind@mail.hosp.go.jp

はじめて当院を受診される方へ

◆診察は予約制になっています◆

1 受診のための手続きは…

予約は、本人・家族は予約センター(054-246-1065)、病院からは地域医療連携室(054-246-4580)
その際、ご本人の氏名・性別・生年月日・住所・電話・保護者氏名をお尋ねいたします。電話をいただきますと、その場で受診日を決め、折り返し当院からくわしい書類をお送りいたします。

2 緊急を要する時は…

受診日は病状に応じてできるだけ対応いたしますので、緊急を要する時はその旨をご連絡ください。

3 紹介状について

現在すでに病院へかかっておられる方は、主治医の紹介状があることが望ましいですが、なくても結構です。紹介状がない場合は別途費用(2,750円)がかかりますので、ご了解ください。病院からの資料もあれば望ましいですが、なくても結構です。

4 セカンドオピニオンについて

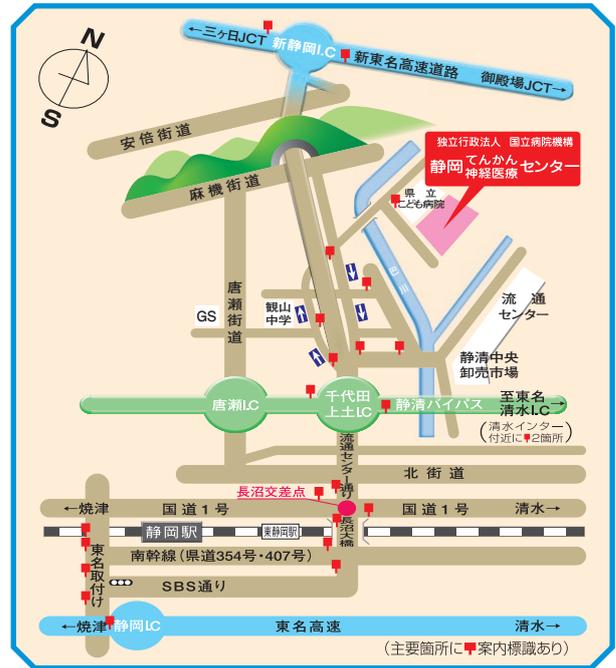
セカンドオピニオンもお引き受けいたします。

5 静岡市認知症疾患医療センターについて

認知症の受診やご相談は専門医療相談 ☎054-246-4608

当院へのアクセス access

バスをご利用の場合	● JR静岡駅前、北口バスターミナル5番線より静岡鉄道バスにて、こども病院線「67 こども病院・神経医療センター」行に乗車、終点の「静岡神経医療センター」で下車。全所要時間は約30分。 片道料金は大人370円、小児190円。
タクシーをご利用の場合	● JR静岡駅前(北口)より乗車。 所要時間は約20分。料金は2,500円程度。
お車の場合	● 東京方面から ● 東名高速清水インターより、静清バイパスを静岡方面に向かい、千代田・上土出口から流通センター通りを北へ約3分。所要約20分。 ● 御殿場JCTで新東名高速道路へ乗換。新静岡ICより、案内板に従い直進。所要時間約7分。
	● 名古屋方面から ● 東名高速静岡インターより、国道1号線を清水方面に向かい、長沼交差点を左折、流通センター通りを北へ約10分。所要約30分。 ● 新東名高速道路・新静岡ICより、案内板に従い直進。所要時間約7分。



本

●抗てんかん薬ポケットブック(改訂第6版)

【日本てんかん協会、2016年】

禁忌、重大な副作用、重大な副作用疾患別症状、体内動態と主な副作用、相互作用、抗てんかん薬プロフィール、新規抗てんかん薬の開発状況、Q & A、識別コード(錠剤のみ)を掲載。

●てんかん症候群(第5版)

～乳幼児・小児・青年期のてんかん学～
【中山出版、2014年】

てんかん学の「ブルーガイド」として世界的に普及している「Epileptic Syndromes(原書第5版)」の日本語翻訳版です。4版よりも10%以上ボリュームが増え、より詳しい内容になり、他では決して得られない極めて貴重なてんかん発作の動画付き。静岡てんかん・神経医療センターのスタッフが総力をあげて翻訳しています。

●新 小児てんかん診療マニュアル 【診断と治療社、2019年】

多くの読者に支えられ改訂を重ねてきた本書。今回、2017年の新しいILAE てんかん発作分類提案に基づいた小児てんかん診療を可能とするために、ここに「新版」として生まれ変わりました。新規抗てんかん薬だけでなく、新分類で重視される病因別の特徴や心因性非てんかん発作、遺伝子検査、MRSといった新しい画像検査など、てんかん学の進歩をたくさん詰め込みました。

●プライマリ・ケアのための

新規抗てんかん薬マスターブック(改訂第2版)

【診断と治療社、2017年】

「副作用のない治療によるてんかん発作の完全抑制」は、治療を担当する医師および患者さんとそのご家族にとって、切実な願いです。2006年以降、「新規抗てんかん薬」とよばれる新しい抗てんかん薬が順次発売され、今後しばらく、新規抗てんかん薬の発売が続くと予想されています。本書は、これらの新規抗てんかん薬の使い方をわかりやすく解説したものです。小児と成人に分けて、エビデンスやガイドラインに基づいて、当院のスタッフがわかりやすく執筆しています。当院高橋幸利先生の編集です。

てんかん情報センターのご案内

てんかんに関するさまざまな情報を集積したセンターが外来棟1階にあります。どうぞご利用ください。次の活動を行っています。

- 1 てんかんに関する書籍・雑誌・ビデオなどの閲覧・貸し出し(自己学習)
- 2 ホームページによる情報提供 <http://epilepsy-info.jp/>
- 3 てんかん協会との連携
- 4 医療などの相談(予定)